

政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名：第14回地域医療政策セミナー プログラム
- (2) 参加者：夢みらい 赤井 康彦
- (3) 日時・場所：平成30年11月1日 13時00分～16時40分
都市センターホテル3階「コスモスホール」
(東京都千代田区平河町2-4-1)

【1. 研修目的】

昨年もこのプログラムの研修を受講したが自治体病院でも工夫してやっつけていける可能性を示してくれました。地域の拠点病院である彦根市立病院は、経営状況が健全であるとは言えない状況でもあり、他地域の状況を把握し、研修することで我が市にも生かせる施策がないかを探りたいという思いで研修に参加いたしました。

【2. 結果報告】

(1) 内 容

崖っぷち 自治体病院 北の大地で経営改革を目指して
ー北の一億円男と呼んでくださいー
長島 仁（士別市病院事業者管理者 病院長）

看取り率76% 新たな看取りの場として機能する
サービス付き高齢者向け住宅 銀木犀の挑戦
下河原 忠道（株式会社シルバーウッド代表取締役）

(2) 考 察

士別市立病院は、毎年多額の繰入額が生じていた所、医療と介護は切り離すことはできないとの観点の中で急性期医療中心の病院から慢性期医療中心の医療に大転換を行った結果、平成29年度は追加繰り入れなしの1億5千万円の黒字となり、平成30年度は、繰入額が9億円以下に抑制できた。

隣町に同じ規模の自治体病院があり、その病院と急性期医療をある程度連携していくという大転換を行い、慢性期医療を実施することで病床ベッド数の割合を大幅に変えた。市民からは、当初、急性期医療を受けられないとの懸念があったが、出来る高度医療は在籍している医師でやっていくというスタンスで市民にも理解していただいたとのこと。

彦根市内や周辺には、士別市より多くの病院が隣接している状況でより病院間の連携や協議が必要であると感じたが、長島氏の言葉を借りればトップの考え方や行動力で経営状況は改善できるのであって、彦根市立病院は、市長や他病院長との連携をもっと取り組むべきであると感じた。

また、株式会社シルバーウッドの代表取締役下河原氏は、建築資材の社長であり、医療や介護の分野の出身ではない。それゆえ、新たな目線での福祉の取り組みが新鮮に感じた。明るい雰囲気のあるサービス付き高齢者住宅を経営され、様々な催しをすることで地域との連携も密にされていた。館内で亡くなられると居住者全員でお別れ会をし、暗いイメージの

残る終末期の看取りをアットホームな雰囲気に変えているのは、違う分野での目線ならではと感じた。また、今後は、仕事付き高齢者住宅という新たな取り組みをされ、更に VR を使った認知症プログラムを開発されるなど様々な展開に目を離せないと感じた。彦根市内においても様々な介護施設が色々な形態で熱心に取り組んでおられるが、看取りという観点で取り組まれているかは疑問の残るところであり、今後の課題でもあり、チャンスでもあると感じた。